

COCORO相談室 / 研修プログラム一覧

研修番号 001	日本LD学会 心理疑似体験プログラム 保護者 教育関係者 心理職 LD・ADHD等，発達面で何らかの凸凹がある子どもの気持ちを理解するために行う疑似体験プログラムです。この研修は，日本LD学会の認定を受けた『特別支援教育士（S.E.N.S）』が通常1日かけて行う研修プログラムを，3時間程度に集約して研修を行います。
研修番号 002	対応が難しい子どもの支援 保護者 教育関係者 心理職 反抗的，挑発的で支援が難しい子どもに対する具体的な支援方法を，愛着面の課題などを踏まえながら子どもの苦しさを理解し，解決に繋げるための方策を実際に特別支援学級やCOCORO相談室で行った事例を通して支援方法のポイントを示します。この事例の一部は，日本LD学会京都大会の自主シンポジウムにおいて話題提供を行っています。
研修番号 003	起立性調節障害と不登校 保護者 教育関係者 心理職 起立性調節障害（OD）と類似の神経的不安症状についての理解を深めます。また，現在加速度的に増えている不登校と，その支援の難しい側面を家族心理学の側面からも捉えながら事例を通してストラテジーを示します。また，不登校対応には避けて通れないゲームやネット依存に至る背景についても触れていきます。
研修番号 004	Q-Uでわかる学級の状況 教育関係者 心理職 最近多くの小学校・中学校で実施される『楽しい学校生活を送るためのアンケート』と称して行われている『Q-U（QUESTIONNAIRE-UTILITIES）』のプロット図から学級の特徴を理解し，いじめ・不登校をはじめ，支援が必要な児童・生徒をアセスメントして教育相談にも活用されています。このアセスメントツールをガイダンスカウンセラーの立場から解説します。
研修番号 005	先生が子どもに惑わされている！ 教育関係者 心理職 集団に馴染めず不適応行動を繰り返す子どもの心理を理解し，その子どもや保護者に適切なアドバイスができるようなスキルを身につけるための研修です。小学校の教員であった頃の失敗談を紹介しながら，教師が陥りやすい認知バイアスなどを解説いたします。陰で集団をコントロールするような子どもへの上手な対応方法なども紹介します。
研修番号 006	生育環境が子どもに及ぼす影響 保護者 教育関係者 心理職 乳幼児期の母性剥離（マターナル・デプリケーション）がその後の成長に大きく影響することについて発達心理学的な視点から理解を深めるための研修です。2018年に起きた『新幹線のぞみ265号』車内で起きた『無差別殺人事件』を事例として，幼い頃の苦しい生育環境が大きな犯罪に結びついてしまった点について考察していきます。

研修番号 007	児童虐待を疑った時は！ 保護者 教育関係者 心理職 『児童虐待の防止等に関する法律』に示された虐待通告の具体的対応と児童虐待発見のポイント，一時保護以降の児童相談所等の流れなどについて理解します。民生委員，児童委員，主任児童委員などの活動を知るとともに，地域連携の難しさや課題などをみなさんと一緒に考えて参りたいと思います。児童相談所や児童養護施設の現状にも触れていきます。
研修番号 008	育児を蝕む夫源病！ 保護者 心理職 夫の存在自体がストレスと言われる『夫源病』について，子育て支援の視点から楽しく研修をしていただけます。特に『アラフォー』世代以降のお母さんにはとても好評な研修です。男性の方にはやや肩身の狭い内容となりますが，互いをよく理解する意味ではお勧めの研修です。『夫源病』は，(敬)石蔵文信医師が名付けた病名で，正式な診断名ではありません。
研修番号 009	視覚協応の脆弱さと読み書き障害 保護者 教育関係者 心理職 点を，具体例を示しながら対応策を学んでいく研修です。視覚協応の弱さが読みの脆弱性だけでなく，動作がぎこちない『発達性協調運動症（DCD）』といった運動協応の脆弱性と密接な関係があることも多くの事例から紹介します。この事例の一部は，日本LD学会栃木大会のポスターセッションにおいて話題提供を行っています。
研修番号 010	教育支援に必要な心理学 保護者 教育関係者 心理職 指導者が陥り易い先入観など，心理的なバイアスを多数ご紹介します。心理学科の学生さんには馴染み深い目立つ特徴に引きずられてしまう『ハロー効果（光背効果）』をはじめ『ピグマリオン効果』『ゴーレム効果』『ステレオタイプ』『スティグマ』といった認知バイアスなどを，実際の教育現場における事例を示しながら『着眼点を変える』視点で学びます。
研修番号 011	バウムテストからわかること 教育関係者 心理職 「実のなる木を描いてください！」といった紙と鉛筆があればすぐに実施できるエミール・ユッカー（E,Jucker）が提唱し，コッホ（Koch,k）が創案した描画による投影法です。深層を探るような専門的な部分には触れませんが，子どもの描いた絵やイラストから，内向性や外向性などを考察するグリュンワルト（Grüwald,M）の空間象徴理論にも触れます。
研修番号 012	交流分析（TA/Transactional Analysis） 保護者 教育関係者 心理職 現在の自我状態を分析し，心の状態をエゴグラムに表し自分自身を理解します。さらに，人と人との交流のパターン（関わり方）について学びます。TAは，精神科医エリック・バーン（Eric Berne）によって提唱された理論で，大学や大学院では半年から1年かけて学習する内容を3時間程度にまとめてエキスをご紹介します。

研修番号 013	活かそう！ WISC-V 保護者 教育関係者 心理関係者 『WISC-IV』検査の結果が、子どもや保護者の将来を変えてしまうような危険性ははらんでいることを事例をもとに考えます。また、新たに登場した『WISC-V』では『知覚推理指標』が『流動性推理指標』と『視空間指標』の2つの指標に分かれ『CHC理論』を網羅することとなりました。このあたりの動向を含め様々な角度から解釈を進めます。
研修番号 014	摂食障害と窃盗症 患者の家族 心理職 生命の危険にも関わる摂食障害と窃盗症（クレプトマニア）との関係性にスポットを当てた研修です。研修での事例は、幼い頃から厳しく育てられた女性の苦悩を考察します。金銭的に余裕がある環境において窃盗を繰り返してしまう嗜癖行動（アディクション）には、幼少期からのストレスが大きく影響している点に着目し対応への糸口を検討します。
研修番号 015	トラウマ・インフォームド・ケア 保護者 教育関係者 心理職 子どもたちが背負っている『心の傷（トラウマ）』を理解し、適切な対応への糸口を探ります。呼吸法、自律訓練法、筋弛緩法、マインドフルネス瞑想法、あるいは認知行動療法（CBT）といった一般的なコーピングスキル（対処法）にウエルライフ推進協会が行うストレスリダクションの方策を交えレジリエンス（回復力・復元力）を高める方法を模索します。
研修番号 016	パーソナリティ障害（前編） 患者の家族 心理職 前編では、『境界性パーソナリティ障害（BPD）』にスポットを当てた研修を行います。学校では保護者対応で、保護者間ではPTAの活動やママ友同士の関係の中でトラブルに巻き込まれてしまうケースを見かけます。見捨てられ不安を刺激すると、これまでの関係性が一気に崩れて突然強い攻撃を受けることがあります。そんな経験がある方は是非・・・
研修番号 017	パーソナリティ障害（後編） 患者の家族 心理職 後編では、『自己愛性パーソナリティ障害』を中心に、パーソナリティ障害全般について理解します。専門的に分析するというよりは、日常生活における人間関係において相手の特徴を知ることによって無用なトラブルに巻き込まれず、適切な距離をもって客観的に相手の立場や気持ちを考えながら対応できるよう具体例を示しながら研修を進めます。
研修番号 018	ちょっとだけスピリチュアル 保護者 教育関係者 心理職 宗教家 神社やお寺、一般的な慣習の中で伝えられてきた人々の知恵を少しだけ超心理学的な視点から因果応報といったことをテーマに考えてみようと思います。参加者のみなさんから様々なご意見やご指摘を覚悟しながら楽しく話題提供できたらと思います。心霊的な視点に立つのではなく、着眼点をかえることにより、メタ認知能力が高めることを考えています。

研修番号 019	空気を読みすぎる子ども達 保護者 教育関係者 心理職 子どもと保護者，学校の先生とでは心理面で『温度差』があることを理解し，子どもの目線を大切にして学習性無力感を回避し，自己効力感を高めていく手立てを学びます。よかれと思って支援していた方法が，学習性無力感やゴーレム効果を引き起こしてきた事実を再認識し，子どもに無用なストレスをかけない支援方法を模索していく研修です。
研修番号 020	仕草からわかる行動心理 保護者 教育関係者 心理職 刑事ドラマなどでも話題となった『マイクロジェスチャー』『なだめ行動』など，恐怖，不安がある際に現れる反応や仕草，行動を観察して相手の嘘を見破るテクニックを学びます。ここでは，子どもの嘘を見抜いて指導すると言うのではなく，子どもと指導者の考えには温度差があることを前提に，子どもの本音を少しでも理解し，より良い関係性を築くための手立てとして研修を進めて参ります。
研修番号 021	最新の診断基準の動向 心理職 『DSM-5（精神疾患の診断・統計マニュアル）』および，WHO世界保健機関による30年ぶりの改訂が行われた『ICD-11（国際疾病分類の第11回改訂版）』による新たな診断名や診断基準について，ご一緒に情報共有させていただけたら幸いです。
研修番号 022	子どもに寄り添った進路支援 保護者 教育関係者 心理職 不登校が社会問題となっている昨今，学校や適応指導を行う教育支援センターだけでは多様化した現状を解決することが難しくなっています。不登校や引きこもりの子どもを受け入れるフリースクールの要素をもった『通信制中学・高校』の現状や課題について，現在在籍している児童生徒の思いや意見を交えながら子どもの進路を考えて行く研修です。
研修番号 023	愛着障害（アタッチメント障害） 保護者 教育関係者 心理職 愛着障害と発達障害の理解と支援を考える研修です。反応性アタッチメント症，脱抑制型対人交流症といった家庭や学校で対応が難しい子どもの生き辛さについて，1年生入学時から6年生卒業までの具体的支援を通して，その子どもが求めている『深層の思いは何か？』と言うことを交えながら実際に行った『心理的学習支援』の手立てについてご紹介します。
研修番号 024	学習の理解が難しい子どもの支援 保護者 教育関係者 心理職 特別支援学級に在籍している児童生徒，通常学級に在籍しているけれども学習内容が十分に理解できていない児童生徒に対して，これまでの学習方法でゆっくりと指導したり課題を少なくしたりしても状況が改善しない場合に，その子どもに合った特性を生かした環境設定を行うことで自己効力感が芽生えて学習意欲が高まった具体的方策をご紹介します。

研修番号 025	WRIST CUT リストカット 患者の家族 教育関係者 心理職 リストカット、オーバードーズ（薬物依存）、ゲームやネット依存といった不登校と関連性の高い嗜癖（アディクション）について、家族関係を改善することで症状が著しく軽減可能な事例を、公認心理師協会の専門講習で紹介された知見やデータを示しながら理解を深めます。薬局・薬店のカウンター越しに市販されているOTC医薬（Over The Counter Drug）の乱用の現状についても詳しくご紹介致します。
研修番号 026	意表を突く対応事例 保護者 教育関係者 心理職 この研修は、放課後等ディサービスの指導者の方向けに研修プログラムを考えました。反応性アタッチメント障害、脱抑制型対人交流障害といった愛着面で課題のある子どもへの上手な対応方法を具体的に示しながら実利的な心理支援を考えます。ダブルバインドといった矛盾するメッセージにより混乱や自信喪失が生じるコミュニケーション状態を意表を突く言葉かけや対応によって関係性を修復する方策などをご紹介致します。
研修番号 027	また相談したくなるような傾聴 保護者 教育関係者 心理職 カウンセリングの基礎の基礎が『傾聴』と『共感』ですが、その解釈は奥が深くベテランの心理職でさえ十分に対応できないことが多いことも事実です。カウンセラーの言葉だけでなく仕草や表情、声のトーンなど、間の置き方など非言語のメッセージが相談者に安心感、不安、不信を感じさせてしまうことを多角的な視点から学んでいくための講座です。
研修番号 028	親、教師が子どもに惑わされている！ 保護者 教育関係者 心理職 子どもの不適切な行動で悩む保護者、支援をする先生や放課後等ディサービスなどの指導者を対象にした講座です。多くの場合、子どもと保護者や指導者とのニーズに温度差があることから確執が拡大し、リストカットやオーバードーズ（多剤服用）といった不適応行動に至ってしまいます。このようなボタンの掛け違えを修復するためにな何が必要なのか。修復のための具体的な手立てを一緒に考えていくための講座です。
研修番号 029	公認心理師（試験対策） 心理職を目指す大学院生 心理職 公認心理師・臨床心理士を目指す大学院生を対象に、教育現場の指導者の視点から受験対策を考えます。民間の受験セミナーとは切り口が異なりますので、受験対策をしながら心理職になった後、即戦力として現実的な対応ができるような視野でセミナーを行います。ちなみに講師は、第1回公認試験は甘く見て4点届かず撃沈。第2回目に合格しています。
研修番号 030	本当の 分かってほしい！ 保護者 教育関係者 心理職 子どもと保護者や指導者とのニーズには温度差があることが前提であるのとを認識し、ボタンの掛け違えを修復するためにな何が必要なのか。その手立てをマズローの欲求5段階説をもとに考えていきます。子どもは、『愛されたい』『認められたい』『人の役に立ちたい』と言った思いがあって、その思いが満たされない時に様々な不適応な行動が生じます。この点にスポットを当てて具体的な支援方法をいかに進めるかを考えます。

研修番号 031	発達障害の理解と支援 保護者 教育関係者 心理職 『文武両道』といった保護者や指導者のニーズに発達障害のある子どもたちが生き辛さを感じていることを再確認するための研修です。子どもの個性に応じた支援と言いながら、何でもこなす『標準化願望』を求めている支援が少なからず存在しています。保護者や指導者の期待に応えようと頑張りすぎて燃え尽きてしまわないような支援プログラムを考えたいと願っています。べき思考を改め負担のない支援を考えていきたいと思っています。
---------------------	---